

ICT教育で大切にしたい。 「個」に応じた学びと失敗できる環境

— 旭川明成高等学校

目的

- 場所を問わない教育環境を実現したい
- 生徒に自由に利用させられるセキュリティ環境を実現したい
- 校外での端末紛失でも対応できるようにしたい

アプローチ

- セルラータブレット導入によるWiFiエリアを気にしない教育環境の構築
- セルラー化によるどこでも使えるMDM環境の提供
- 生徒全員のアプリ管理が出来る環境の構築

より多様な学びの場をめざして、LTEモデルへ切り替え

旭川明成高等学校は、2015年度より3学年同時に約600台のタブレットを導入し、一人1台体制を本格実施しました。生徒の習熟度に合わせた学習環境が提供しやすいICTのメリットを活かして、「個」に応じた学びの場を築くとともに、生徒の自主性を重んじた自由度の高いタブレット活用に取り組んでいます。

ICTは、『個』に応じた学びを提供できることがメリット

同校では、これからの学校はICT教育に取り組むことが必須であるとし、2015年に3学年同時にタブレットの一人1台体制を実施しました。これについて、同校の教務部長 千葉広規教諭は「ICTはさまざまな場面で活用できますが、なかでも『個』に応じた学びを提供できることがメリットだと考えています。一斉授業で教えると、どうしても生徒の習熟度にばらつきが出てしまいますが、教師が1対1で教えると理解できる生徒は多くいます。ICTはそうした生徒一人ひとりの習熟度に合わせた学習ができるツールだと考えています」と語っています。



教務部長 千葉 広規 教諭

一方で、同校は当初からWi-Fiモデルのタブレットを採用していましたが、2018年度の新入生からLTEモデルに切り替えました。これについて千葉教諭は「教室にいる間はWi-Fiが良いのですが、“体育館に集まって全員でタブレットを使いたい”“校外学習に持っていきたい”など要望があり、いつでもどこでも使える通信環境があると、さらに学びの多様性が広がる」と思いました。“次はこうしてみよう”と先生のアイデアも生まれやすくなっていると感じます」と話しています。



学校法人旭川宝田学園
旭川明成高等学校

北海道旭川市緑町14

URL: <http://www.takarada.ed.jp/meisei/>

旭川明成高等学校（北海道旭川市／以下、旭川明成高校）は、グローバルに考え、ローカルに行動する“Go Glocal”を合言葉に、世界と地元で貢献できる人材育成をめざす私立高校です。一人ひとりの個性を伸ばす教育や進路指導に力を入れ、生徒が自由に科目を選択できる総合学科を設けるなど特色ある教育を実践しています。

生徒の習熟度に合わせて、良質な個別学習の環境を

学校生活のあらゆる場面で、タブレットが文房具として定着

旭川明成高校のタブレット活用は4年目に突入し、今では学校生活のあらゆる場面で使用されています。普段の授業はもちろん、オンライン教材を用いた個別学習や学校行事、家庭学習、保護者への連絡、学習管理など、**タブレットが文房具として定着しています。**

たとえば英語の授業では、オンライン英会話サービスを利用して外国人講師とリアルタイムでつながり、1対1の環境でスピーキングの力を伸ばしています。一般的には、ALTの教師が一斉授業でスピーキングを教えるケースが多いなか、旭川明成では**タブレットを活用することで、一人ひとりのレベルに合わせた英会話学習を実現**しました。これにより、生徒たちの発話量も増やせるのがメリットです。

同校で英語を担当する佐藤圭介教諭は「**タブレットを通して生身の人間と話すことで、生徒たちは“自分は英語が話せなくて申し訳ない”“もっと話せるようになりたい”と実感**します。このような気持ちを味わうことがコミュニケーション力を育てるためには大切で、**良質なインプットができる環境だと考えています**」と話しています。



ICTのメリットを活かして学習の効率化に取り組む

佐藤教諭はほかにも、タブレットを活用してスピーキングのテストを実施したり、プレゼンテーションを行ったりしています。また佐藤教諭が出張の際は、移動中の電車の中から授業支援システムを活用し、教室で自習する生徒たちとつながって添削を行うといます。**いつでもどこでも、情報共有しやすいICTのメリットを活かして学習の効率化に取り組んでいます。**



佐藤 圭介 教諭

失敗しながら学べる環境、学校でしかできない学びをめざす



旭川明成高校のタブレット活用で特徴的なことは、**最低限の安心・安全を確保しつつも、アプリのダウンロードやウェブサイトへのアクセスなどの制限を最低限とし、生徒たちの自由度の高い使い方を認めている**ところです。

実際に、高1の女子生徒に話を聞くと「自分が好きな英単語アプリをダウンロードして学習に使っています」と話してくれました。同生徒は、タブレットで視聴できる動画教材を家庭学習に活用しているといいます。また高1の男子生徒はタブレットの活用について「配布されるプリントの量が圧倒的に減り、無くすことがなくなりました。カバンも軽くなったのが嬉しいです」と話しています。**生徒たちにとっても自由に使えるタブレットは、学習の良き相棒であるといえます。**

佐藤教諭は4年間のタブレット活用を振り返り、「生徒たちの情報リテラシーは向上しています。利用制限をかけることで時に不適切な使い方もありますが、**失敗しながら学べる環境は大切だと思います**」と語っています。生徒が何か悪いことをしてしまうのではないかとタブレットの利用範囲を制限する教育機関が多いなか、**旭川明成高校は生徒の自主性を重んじた情報リテラシーの育成に取り組んでいます。**

とはいえ、タブレットやICTを使うことが全てではありません。佐藤教諭は「ICT教育を進めると同時に、学校は“学校でしかできない学び”に取り組むことが重要だと考えています」と語っています。今後は協働学習などを通して、学校に集まって学ぶ意味を実感できる授業を届けたいというのです。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)
受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/



※本チラシの内容は2018年7月取材時点のものです。